

## シンポジウム

### ◆ ビジネスモデルと知財 ◆

#### 【講演者】 三瓶 裕喜 氏

アストナリング・アドバイザーLLC 代表

一橋大学 CFO 教育研究センター客員研究員・講師

投資家フォーラム共同設立メンバー・運営委員

The Association of Stewardship Professionals, Content Oversight Committee member



#### 【略歴】

1987年3月 早稲田大学工学部 卒業

1987年4月 日本生命保険相互会社 入社

2001年4月 Nissay Deutsche Asset Management Europe Limited CEO (ロンドン)

2006年4月 ニッセイアセットマネジメント株式会社 国内株式運用室長 兼 国内株式統括部長

2007年4月 フィデリティ投信株式会社 Director of Research

2017年1月 Head of Engagement

2021年4月 アストナリング・アドバイザーLLC 創業 代表

委員等(2022年):

内閣府「知財投資・活用戦略の有効な開示及びガバナンスに関する検討会」

金融庁「スチュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議」

金融庁「金融審議会ディスクロージャーワーキング・グループ」

東証「市場区分の見直しに関するフォローアップ会議」

経済産業省「サステナブルな企業価値創造のための長期経営・長期投資に資する対話研究会(SX研究会)」

経済産業省「価値協創ガイダンス・ワーキンググループ」

経済産業省「人的資本経営の実現に向けた検討会」

内閣官房「非財務情報可視化研究会」 など

#### 【講演要旨】

内閣府主催の「知財・無形資産の投資・活用戦略」に関する検討会は2シーズン目に入った。主な問題意識として、「知財＝特許等の知財権」との狭義の捉え方がされていること、コーポレートガバナンス・コード再改訂で明示的に求められた知的財産への投資等の情報開示の対応が形式的であること、開示情報の利用者である投資家がどのような視点で知財を考慮するのかわからないこと、などが挙げられている。そこで、「投資家はどのような視点で知財を考慮するのか」について、ビジネスモデルの捉え方と絡めて解説を試みる。